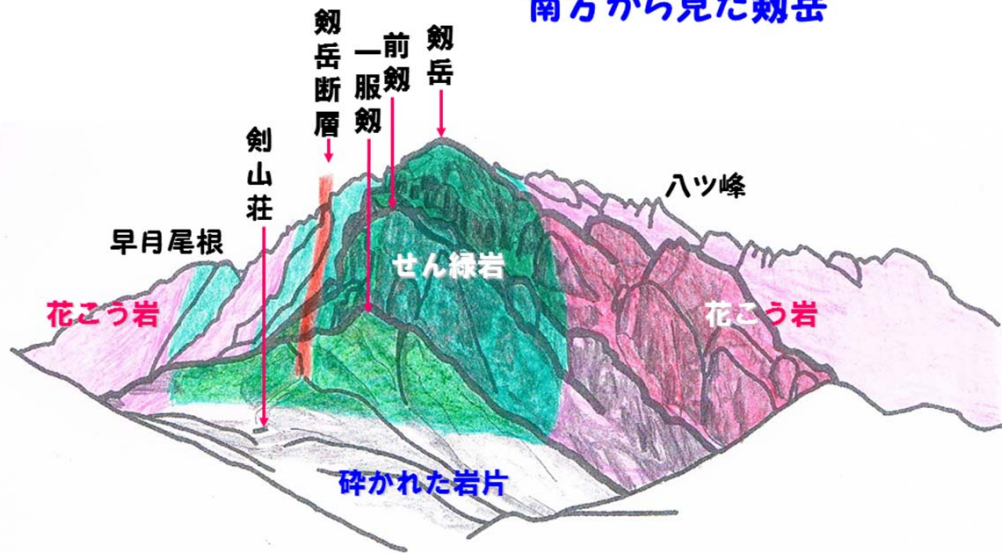


百名山自然ガイド ^{つるぎ} ^{だけ} 劔岳

山頂の標高:2999m

#百名山自然ガイド #劔岳

南方から見た劔岳



「せん緑岩」の岩山：劔岳

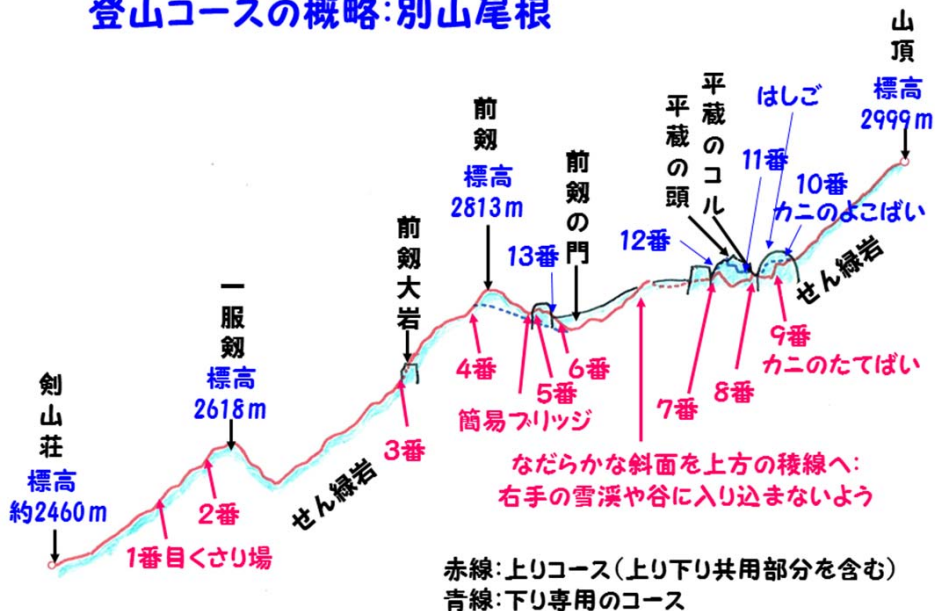
○劔岳の山頂部をつくっているのは、「せん緑岩」やそれに近い岩です。

○この岩は、「花こう岩」のように結晶のつぶつぶでできていますが、それは、溶けたマグマが、地中の深い所で長い年月をかけてゆっくり固まったことを示しています。

○「せん緑岩」には、白い「長石（主に斜長石）」と、緑がかった茶色～黒の「角せん石」が多く含まれています。「花こう岩」に多い白～半透明の「石英」は、少ししか含まれません。

○“せん（閃）”という字には、光る、きらめく、などの意味がありますが、長細い形をして光沢のあるところから「角せん石」の名がつき、やや緑がかった色から「せん緑岩」の名がつけました。

登山コースの概略:別山尾根



別山尾根(べっさんおね)

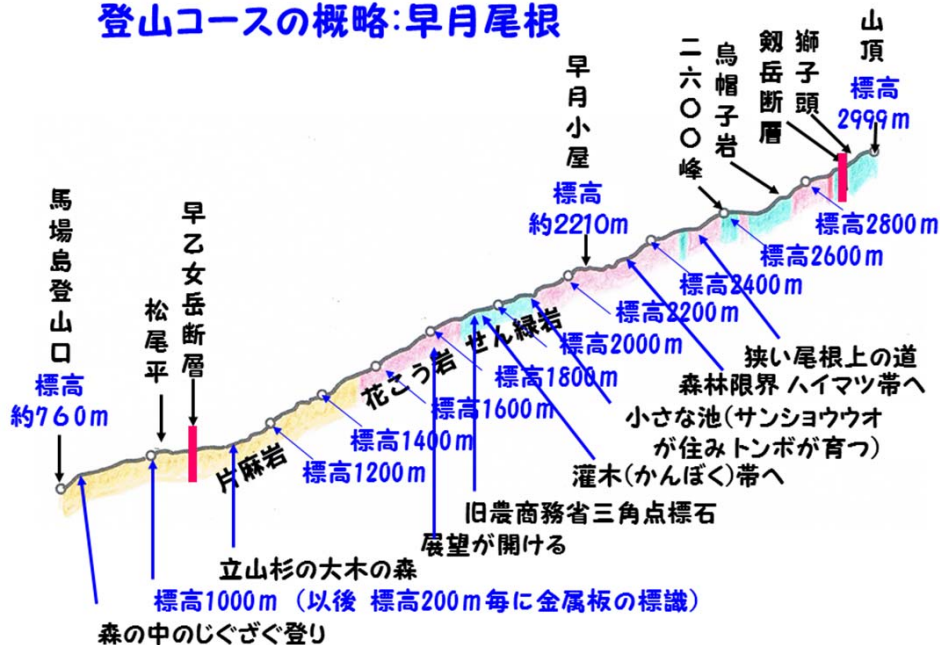
○南側の立山方面から剱岳に向かうのが別山尾根コースです。一服剱、前剱のピークを越えて、山頂を目指しますが、剱山荘から上はほぼ全コース、せん緑岩をふみしめて登ることになります。

○コースには、岩場の急な登りや、岩壁を横に移動する場所が次々に出てきます。身体のバランスを保ちながら進みましょう。そういうところにはくさりが取り付けられていて、手助けになります。

○前剱から先には、上りと下りが分かれているところがあります。5番～9番のくさり場は上り専用、10番～13番のくさり場は下り専用です。

○落石を起こさないように、また、落石に巻きこまれないようにしましょう。ヘルメットがあると、より安心です。なお、けがは、足に疲れがたまった下山時に多いようです。最後まで気を抜かずに。

登山コースの概略:早月尾根



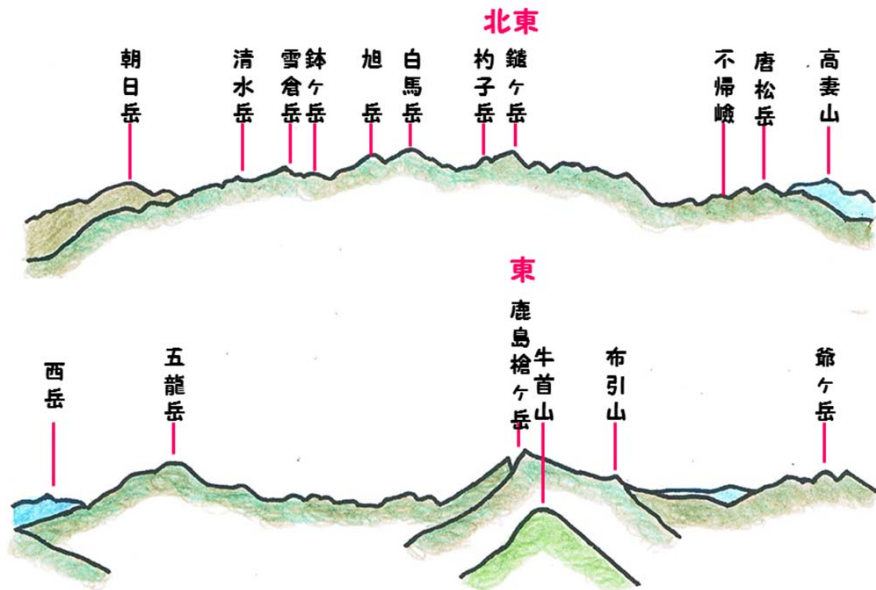
早月尾根

○西側のふもとの馬場島(ばんばじま)から、山頂へ向けてひたすら登り続けるのが早月尾根コースです。登山口から山頂までの標高差は2000m以上あり、途中の早月小屋か、そこにあるテント指定地で一泊するのが標準です。

○南側の別山尾根コースほどではありませんが、山頂近くには、岩に打ち込んだボルトに足をのせて岩壁を渡る地点など、くさりに助けられる場所があります。別山尾根コース同様、体力や、山登りの経験が求められます。

○登山口から標高1400m過ぎまでは、古い片麻岩の山道です。さらに登ると、花こう岩とせん緑岩質の岩が交互します。なお、ふもと近くと山頂近くには、昔ずれ動いた断層があります。いずれ大きな地震をひき起こす断層かもしれませんので、少し気にとめておく必要があります。

山頂からの展望：北東～東



何千mも持ち上げられた山：劔岳

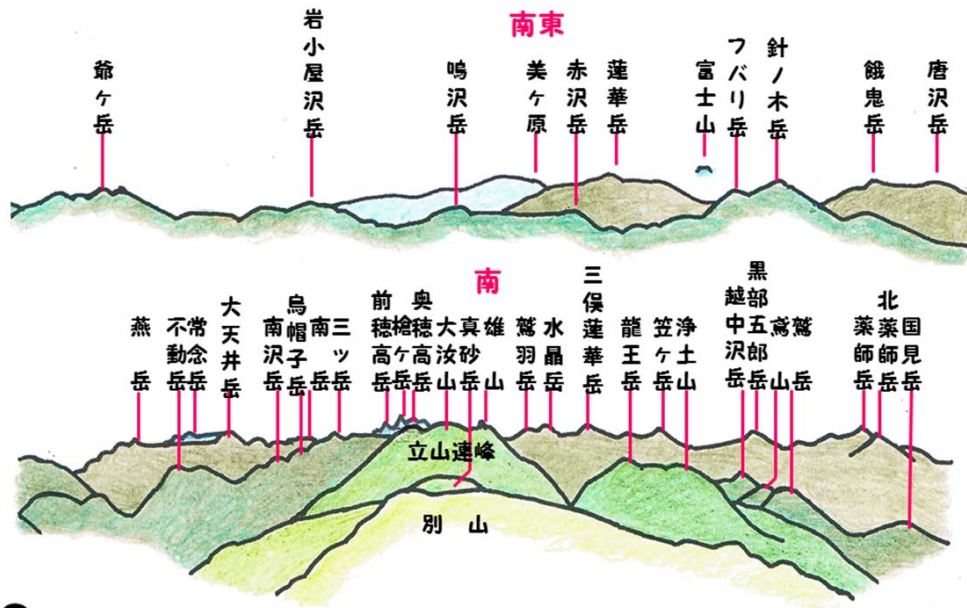
○劔岳の「せん緑岩」は、山頂から南へ、前劔、劔御前へと続く尾根に沿って延びています。周りの岩よりも硬かったために削り残され、岩の峰として残ったことがわかります。

○劔岳の中腹やふもとには、「花こう岩」があります。「石英」の結晶が多く、「せん緑岩」よりも白っぽさが目立ちます。

○劔岳とその周辺の「せん緑岩」や「花こう岩」は、2億年くらい前（中生代三畳紀～ジュラ紀）の時代、まず「せん緑岩」のマグマ、その後「花こう岩」のマグマがやってきて、それぞれ固まったようです。

○現在それが地表で見られるというのは、長い時間をかけて地面が何千mも大きく持ち上がり、現在残っている部分よりも上がすっかり削られて、無くなってしまったことを教えています。

山頂からの展望：南東～南



氷河が残した地形：劔沢

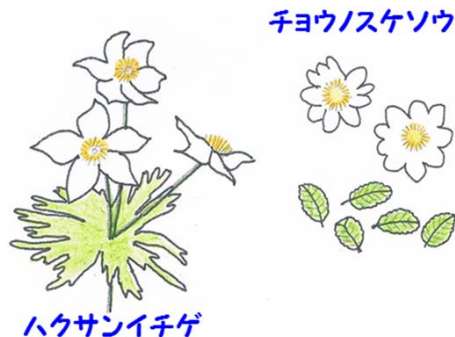
○2万年ほど前の世界は、気温が今よりも数度低く、寒い気候でした。この寒い時代は1万年くらい前まで続き、北アルプスの山頂部にも、あちこちに氷河を生じました。

○登山コースになっている劔沢の上部は、谷幅が広くてかなり平坦です。谷いっぱいに広がった氷河が、谷底も横の壁も強い力で削ってできた地形で、「U字谷(ゆうじこく)」と呼ばれます。

○寒い時代の最後の時期、氷河は谷の最上部まで後退し、そこにお皿のような平らな地形を残しました。これが「劔沢カール」で、たとえば劔沢小屋は、氷河が山を削って運んできた岩片の小山の上に建てられています。

○その後は、雨水によって谷底の一部が少しずつ刻まれています。現在は、「V字谷(ぶいじこく)」が作られていることになります。

チングルマ と チングルマに似た花



- チングルマによく似た白い花にハクサンイチゲがあります。花びらに見えるのは「がく」で、少し細長い形をしています。
- チングルマと同じバラの仲間にチヨウノスケソウがあります。岩場に咲き、花びらが8～10枚と多いことで区別できます。

花のミニ知識：チングルマ

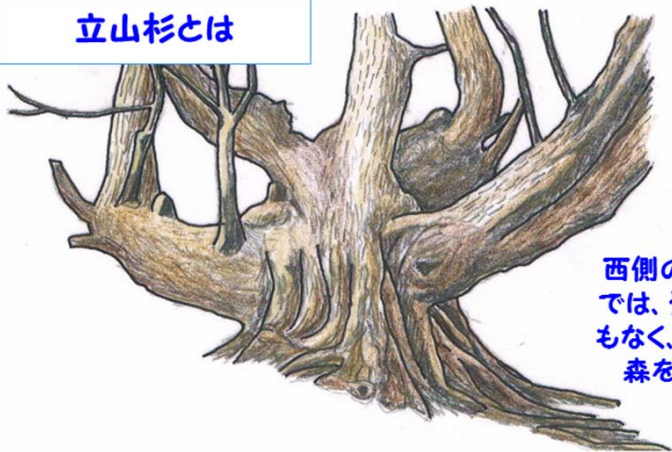
○チングルマは、さしわたし2cmくらいの花で、高山の湿地や草地によく見られます。丸みのある5枚の白い花びらと、花の中央にあるめしべやおしべの黄色い色が印象的です。

○チングルマはバウの仲間です。背の高さは10cmくらいにしかないので草のように見えますが、“木”に分けられています。細い幹が地面をはうように広がり、何年も生きています。

○秋になると、ふさふさの毛がたくさん伸びた実をつけますが、それが渦巻きのようになびいて、風車のような感じになります。

○1800年代初めには、すでにチングルマと呼ばれていました。後に“ちご(子ども)の車”という意味だと説明されましたが、本当のところはわからず、“チン”は“小さい”とか“頂”の意味かもしれませんし、“ちごの舞い”から転じたという提案もあります。

立山杉とは



西側の早月尾根ルートでは、登り始めてからまもなく、立山杉の大木の森を通りぬけます。

- 天然のスギは、屋久島から青森県までの各地に育っています。少しずつ性質がちがい、それぞれの地方の名前がついています。
- スギは針葉樹ですが、常緑広葉樹や落葉広葉樹が育つ気候の方が好きで、広葉樹との競争に勝てると、大木の森が生まれます。

「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。四季の丹沢ほか、各地の案内を下記に順次掲示していきたいと思いますので、機会がありましたら、どうぞご利用ください。

<https://yama3823.com/100meizan/index.html>



左のアドレスのQRコードです

なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama_3823@yama3823.com
(メール送付のときは、添付ファイルはつけないようにお願いできるでしょうか)

- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。
安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。
- 登山者には、登山届を提出することが呼びかけられています。
予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
- 動植物や石をとったり、岩を欠いたりするには許可をとることが必要な区域が
広くあります。そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
 - ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。
ごみは、各自で持ち帰りましょう。

夏の花



イワベンケイ(おばな) イワベンケイ(めばな)

厚みのある葉に水分をためています。めばなは、
このあと赤く色づき、やがて実になります。

イワツメクサ

花びらは、10枚では
なく、実は5枚です。

イワギキョウ



3cm



作成記録：主な変更点

- 2016年8月作成.
- 2024年7月ホームページ掲載. 14頁変更.